

書評

文光堂刊

ここがポイント！

抗菌薬耐性を攻略する 抗菌薬の選び方・使い方

抗菌薬の基礎知識から感染症治療・感染制御まで

編集 堀井俊伸 浜松医科大学医学部感染症学講座 教授

● A5判・212頁・2色刷・定価 2,625円 (本体 2,500円)

堀井先生と矢野先生の共著『抗菌薬耐性を攻略する抗菌薬の選び方・使い方』は、現場で遭遇することの多い耐性菌、① MRSA (クロストリジウム・ディフィシルを含む)、② 緑膿菌、③ ESBL 産生菌、そして院内肺炎として最も頻度の多い④ 誤嚥性肺炎をテーマとし、4つの各章から構成される。テーマをこの4つに絞ってじっくりと記述されているところが、まず本書の良い点である。なぜなら他の耐性菌(VRE, PRSP, BLNAR など)による感染症は、日々の臨床で問題になることが非常に少ないからである。医療現場で日々、これら4つの感染症と格闘している医師にとって、有益な情報が満載されている本書は頼もしい援軍である。

本書の記載方法は考え抜かれた独特なもので、読者の理解を促進すると同時に、頭の中の知識が整理されるように工夫されている。

第一に、要旨を2~3行で記載し、その下に本文(説明文)を記載するという方式が貫かれている。この各章および12のコラム読了後、再度この要旨を復習確認のために何度も読み返し、知識を完全マスターすべきである。

第二に、各章は次の順序で整然と統一的に記載されている。

「1. 概要」では、耐性菌に有用な抗菌薬が列挙され、各感染症についても概説される。

「2. 抗菌薬の基礎知識」では、各抗菌薬の作用機序、PK/PDの特徴、経口剤の吸収率(生物学的利用率)、組織移行、排泄経路、薬物相互作用が図解入りで丁寧に記述され、堀井先生の臨床微生物学への造詣の深さが示されている。これ

らは抗菌薬適正使用の土台となる不可欠の知識であり、ここをマスターしなければ、先に進めない。

「3. 抗微生物スペクトルの特徴」では、推奨された各抗菌薬の重要な有効菌種の抗菌スペクトルが記載され、重要抗菌薬の知識をさらに進化させることができる。

「4. 抗菌薬耐性の問題」では、感染制御の専門家として理解しておくべき、耐性菌の発生状況、耐性メカニズム、耐性に関するトピックなどが記されている。

「5. 抗菌薬療法のための知識」では、耐性菌感染症に対する効果的な抗菌薬の使い方、第一選択薬とすべき薬剤、併用療法の組み合わせ、de-escalationの方法などが記されており、非常にブラクティカルな記述であると同時に最新の話題も取り入れられており、臨床現場の医師・薬剤師にとって最も有用な部分でもある。

「6. 感染制御のための知識」では、耐性菌の隔離予防策の考え方とともに、TDM や抗菌薬の処方規制(届出制、許可制)を含め、耐性菌を増やさない抗菌薬投与方法が述べられている。さらに、感染対策のケーススタディとして、アウトブレイクの発生に対し、どのような手順で対策を取ることにより問題を解決していったかが、事例を通して明確に解説されている。

本書が感染症を診療する医師のみならず、抗菌薬使用の適正化活動に参加するすべての医療従事者の座右の書となることを願う。

向野賢治

(福岡記念病院感染制御部長)